京都の教育旅行に新たなプログラム

海の京都DMOが提案

京都府北部（海の京都）で“日本の原流”体験

高校、中学校の教育旅行先として欠かせないのが京都だ。世界遺産の寺社仏閣が集中し、日本の歴史や伝統文化を肌で感じることができる。しかし、近年はオーバーツーリズムの影響からか「ゆっくり見て回ることができない」という声が学校側から聞こえてくる。

京都府、および京都北部7市町（福知山市、舞鶴市、綾部市、宮津市、京丹後市、伊根町、与謝野町）でつくる一般社団法人京都府北部地域連携都市圏振興社（通称・海の京都DMO）は「理系・文系問わず教育素材が豊富で、教育旅行先として最適」とアピールする。広いエリアでじっくりと腰を据えた学習が可能だ。

海の京都エリアは古代国家「タニハの国」として日本創生の舞台となり、豊受大神の伝説や鬼伝説など多くの歴史的証づき、日本の源流を感じられる。舞鶴では舞鶴引揚記念館での平和学習もできる。

ここでは7地域の魅力を紹介する。なお、月刊「教育旅行」（2025年2月号）掲載の、竹内秀一・日本修学旅行協会理事長による視察レポート「京都市内から意外に近い『海の京都』での探究学習プログラム」をぜひ参照してほしい。

抑留体験室

舞鶴地域

貴重な資料展示 世界記憶遺産も

舞鶴は、第2次世界大戦の終戦後、シベリアや旧満州など海外にいた日本軍人と民間人の帰国事業を実施した18港の中で、1950年以降、国内唯一の引揚港になった。その役割を終える昭和33年までに66万人の引揚者を温かく迎え入れた。「戦後復興のふるさと」といえる地だ。

港の近くにある舞鶴引揚記念館は、日本史の教科書でも多くは触れられていない引き揚げやシベリア抑留について学び、考えるための貴重な資料が収蔵・展示されている。

中学生や高校生からなる「学生語り部」による展示案内、交流プログラムはぜひ受けてほしい。

シベリアの地で使用したコートなどの防寒具をはじめ、引揚証明書など1万6千点の貴重な資料の文書類など全国から約収蔵資料のうち570点にて千点を超える展示を行っている。

2015年10月10日にがユネスコ世界記憶遺産に登録された。

学生語り部による案内

天橋立地域

日本三景の一つ 保全活動に熱心

日本三景の一つで国の特別名勝である天橋立。全長約3・6キロ、幅約20メートル～170メートルで、大小合わせて約8千本の松が生い茂っている。

風光明媚な光景だが、見る場所によって眺めが変化するという。その一つが天橋立ビューランド。文珠山山上にあり、ここから「股のぞき」した時の眺めは、天橋立が天に舞うように見えることから「飛龍観」と呼ばれている。観覧車やサイクルカーなどがあり、子供から大人まで楽しめる。

天橋立は特別名勝に指定され2022年で70年が経過した。美しい景観を保つための取り組みも学んでほしい。

歴史や環境問題などSDGsを意識した探究学習プランが体験できるのも大きな特徴だ。座学や学芸員との天橋立ウオーク、「天橋立まもり隊」参加による落ち葉（松葉）の実践、意見交換会など拾いなどの環境保全活動　貴重な体験ができる。

松並木の清掃

天橋立ビューランド

京丹後地域

海のごみ問題に 市、民間で解決

「海の京都」エリアの最北端に位置するのが京丹後市。ユネスコ世界ジオパークに認定された「山陰海岸ジオパーク」の海岸線は絶景で、丹後半島一周のドライブやサイクリングが人気だ。

市は「観光SDGs」を目指し、訪問者と地域が一緒になって海岸保全に取り組んでいる。例えば、「ワンハンドビーチクリーン」は海水浴場開設期間中、市内の海水浴場を訪れた人たちに片手で拾える程度の海岸漂着ごみを回収してもらう。

「はだしで遊べる海を未来につなぐ」活動をしている株式会社あしあと。ごみを廃棄物としてではなく、新たな価値に変える取り組みを行っており、ビーチクリーン体験やプラスチックアップサイクル体験を提供。

例えば、ビーチクリーン体験で採取したプラスチックの海ごみの一部を特別な器具を利用して加工を施し、奇麗なペンダントやアクセサリー等にアップサイクルできる体験が好評だ。

ビーチクリーンに熱心に取り組む

綾部地域・農家民宿

海の京都エリア南部に位置し、山々に囲まれた中丹地域（綾部市、福知山市、舞鶴市）では、里山での「農家民宿」に注目が集まっている。

「豊かな自然や里山、田園風景の中で、農山漁村の素朴な暮らしが体験できる」と人気だ。

綾部市には京都府下でもっとも多い20軒を超える農家民宿がある。伝統的な日本家屋スタイルだが、宿泊客を迎え入れるため美しく改装されている宿も少なくない。

田植え、野菜収穫、まき割りなどに感動する生徒も多く、オーナーと別れるのがつらいと涙ぐむ生徒もいる。

郷土料理もおいしい

伊根地域・浦島伝説

「昔々浦島は　助けた亀に連れられて　竜宮城に来てみれば　絵にもかけない美しさ」。文部省唱歌「浦島太郎」の一説は有名だ。

伊根町の本庄地区には浦島太郎伝説が伝わる「浦嶋神社」（または宇良神社ともいう）がある。平安時代初期の天長2（825）年創祀という歴史ある神社だ。日本書紀には同地の浦島伝承が記され、いまなおこの地に脈々と受け継がれている。

宮司が重要文化財の掛け軸を用いて説明してくれ、日本最古の浦島太郎伝説を知ることができる。

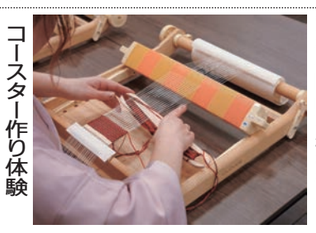
浦島太郎の伝説が伝わる浦嶋神社

与謝野地域・ちりめん

丹後ちりめん―京都府丹後地方で緯糸に強撚糸を使用して織られ、丹後で精錬加工を経ることで生地表面に「シボ」と呼ばれる凹凸が生まれる、後染め織物の総称。

与謝野町の主要産業はちりめんであり、400軒ほどの機屋が稼働している。全国からシルク製品が集まる織物ミュージアム「丹後ちりめん歴史館」のように、手織体験を通して丹後ちりめんの歴史を肌で感じることができる施設もある。

与謝野町観光協会では、シルクで緯糸と強撚糸を織り合わせたオリジナルのちりめんコースターを作る体験が可能だ。


コースター作り体験

福知山地域・丹波漆

縄文時代から人々の生活の中で使われてきた「漆」。その数少ない国内生産地の一つが福知山市夜久野町だ。「丹波漆（たんばうるし）」と呼ばれるその漆はわずか数人の「漆掻き（うるしかき）」職人によって生産され、その技術は京都府の無形民俗文化財に指定されているという。

漆器や神社仏閣などの修理・修復にも使われており、伝統文化を支える貴重なものだ。

夜久野町には丹波漆のPR施設として市が運営する「やくの木と漆の館」があり、漆塗りの体験もできる。

伝統工芸技術「漆」の植栽風景

「私たちのプランで行こう！」

修旅先決める プレゼン大会実施

桃山学院中

桃山学院中学校（大阪市阿倍野区）は18日、25年度の修学旅行を決めるプレゼンテーション決勝大会を開いた。8チームがプレゼンに臨み、自分たちの旅行プランの内容やセールスポイントを全力で紹介。学年120人と教員らが、行程や予算、プレゼン内容などを審査、投票し、沖縄への旅行を決めた。

同校では中学2年生の修学旅行について、社会性の育成などを目的に中学校開設時から生徒による旅行プラン作りを行っている。生徒たちは1学期から旅行プラン作りを開始。旅行会社の担当者から、飛行機搭乗に要する時間など、団体旅行のプラン作りに関する基本的な知識など説明を受けた上で、予算内で実現可能な日本国内での旅行プランを計画する。交通手段や所要時間、予算などインターネットなどで情報収集するほか、飲食店や宿泊施設に団体の受け入れが可能かどうかや団体料金の有無などを問い合わせるなどして、実現可能なプランを作り込んでいる。

今回は学年全体で29チームが旅行プランを作成。決勝大会にはクラスごとの予選会で選ばれた8チームが登壇し、10分間の持ち時間でそれぞれのプランを発表した。

最終プレゼンを行ったチームのプランは、新幹線を使って石川県や福井県を訪れ、あわら温泉の温泉旅館に滞在したり民泊体験をしたりするプランや、九州方面で平和学習やハウステンボスでの自由研修を組み合わせたプランなど。各チームとも、「いろんな景色を楽しむ」「都市圏から田舎圏まで全員が楽しめる」などのコンセプトに基づき、プランの見どころや自由研修のモデルコースなどを、写真や動画を交えながら紹介。「ぜひ私たちのプランで修学旅行に行きましょう」とアピールした。プレゼン後には生徒たちからは、「サンダーバードが止まった場合の代替案は」「自由行動の時の交通費は」などさまざまな質問が出された。

今年度は学習用のタブレットを使って、その場でプランへの投票を実施。教員や旅行会社の担当者らの票も合算した上で、平和学習や民泊、ジャングリア研修などを組み合わせた沖縄方面へのプランに決まった。

今後、旅行会社による調整などを経て、正式な旅程を決定、修学旅行に臨む予定だ。

プレゼン大会の様子

学びの中に「つかる」旅を！

「おんせん県」の大分県 体験型修学旅行を提案

日本一の「おんせん県」を自認する大分県は、海と山が間近に迫る大自然の景観や、日本一という源泉数と湧出量を誇る温泉、時代が創り出した歴史など、紡がれてきた営みとそのぬくもりが地域の暮らしの中に息づいている。県では、それに浸ってこそ巡り合える絶景、文化、食などを生かした体験型の修学旅行を提案。キャッチコピーは、「学びの中に『つかる』旅を！」だ。

体験プログラムは、農家の暮らしや、食の大切さを学ぶ「農村民泊」や、伝統農法を体験できる「世界農業遺産プログラム」、海外からの外国人と交流し、知見を広げる「グローバル人材プログラム」などを多岐にそろえる。これらの体験学習を学ぶ上で重要な存在と位置付けられているのが「探求ナビゲーター」だ。

大分県教育旅行ガイドブックは探究ナビゲーターを、教育旅行における体験プログラムの中で、名所や歴史、取り組みなどを案内するとともに、ディスカッションの場を設け、目にした物事から学びを促すことができるファシリテーター的ガイドと定義した。

教育旅行の現場では、名所などの見どころを紹介する従来の「ガイド」ではなく、生徒に振り返りの機会を提供する「ファシリテーター」の存在が重要視されており、大分県では以前から、人とのつながりや、ふれあいを大切にしたプログラムを展開。その中で、キーパーソンとなる大人がファシリテーターの役割を担ってきた。こうした独自の文化と、近年の需要の高まりを受けてガイドブックでは、ファシリテーターを探求ナビゲーターと称し、その活動を後押ししている。

環境学習プログラムの「別府湾漁船クルーズ」は、別府湾から日出（ひじ）町の景観を堪能する」は、大分県漁業協同組合理事がナビゲーターを務める。プログラムは事前学習を経て実際に船に乗り込み、ナビゲーターが海中の生態系や、漁師の仕事を解説。競りの見学も可能という。振り返りの時間では、取れた魚を流通させる仕組みや、美しい海を守るためにできることについて意見を出し合う。

宇佐市は、平和学習プログラム「宇佐海軍航空隊跡『平和の大切さと命の尊さ』を考える」を提供している。数々の戦争遺構が残る市では以前からこのプログラムを提案。事前学習、事後学習を容易にするため教材開発にも取り組み、VR体験をも活用する。現地学習では全て回り切れない遺構の中を自由に巡ることができる。

臼杵市では今年から、商業探求プログラム「臼杵まなび旅　城下町復興インタビュー研修　臼杵八町大路大火災復興プログラム」の提供を開始した。城下町として知られる臼杵市では昨年11月に大火災が発生。この火災により自宅兼店舗が全焼した被災者などがナビゲーターを務める。このナビゲーターは、「火はあっという間に燃え広がり何も持ち出せなかったが、多くの人に物や気持ちの援助をいただき、今、復興に向かっている。この経験を、防災教育を兼ねて生徒の皆さんに伝えていきたい」と話している。

大分県の教育旅行についての問い合わせ先は、公益社団法人ツーリズムおおいた☎097（536）6250まで。

日出町漁船クルーズ

宇佐平和学習

臼杵まなび旅

新潟県三条市 餃心亭おゝ乃

団体昼食の受け入れ開始　大型バス4～5台可能

新潟県三条市の食事処「餃心亭おゝ乃（せんしんていおおの）」は昨年、駐車場を整備し、大型バス4～5台の受け入れを可能とした。今年に入ってから団体旅行の昼食の受け入れを開始し、現在、旅行会社への提案を強化している。

同店は、三条燕インターチェンジから3キロで、国道289号線から1分ほどの場所に位置する。近隣に団体の昼食を受け入れる施設がなかったことから、駐車場の整備に至った。

館内は最大200人を収容できるバンケットホール「きらめき」と、80人収容の「ルゥ・シエル」に加え、72人を収容するウェディングホール「シンシア」の三つの会場を擁する。館内全てはバリアフリー対応で、エレベーター、車椅子、ジェンダー対応車椅子トイレを完備する。

ランチメニューは「にいがた和牛　越後味噌（みそ）すき焼き」「新潟B級グルメ　鶏の半身カレー揚げ」に加え、旅行会社向けの「ランチ会席コース」を用意している。

にいがた和牛越後味噌すき焼き（イメージ）